

***** セルラス物語 エピソード7 *****

～「大人としゃべれる小学生はすごいですよ！」

言われて気づいた当たり前の環境～

まだ、二人の息子が小学校に上がる前、早期教育というのが流行って
いました。

でも、私は子供だけに何かやらせるっていうのは、ちょっと違うと思って
いたので、何かないかなとじっくり探していました。

そんな時、セルラスに出会いました。親子で一緒にできる!私の探して
いたものだと思いました。子どもと一緒に何かできる時期は限られている
と思っていたので、これなら!と思いセルラスに飛び込んだのは、子供が
小3と小1の時でした。

ただ、次男は相当マイペースで自分の思いを通すタイプ。これが私の
悩みでした。みんなの中に溶け込めるのか?みんなと一緒に活動できる
のか?不安でした。

案の定、ピアザでの自己紹介タイムで、みんなの前に立っても、周りが
いろいろ励ましてくれても、「絶対やらない。」と一言も話しませんでした。
やっぱり無理かなあと思いましたが、メンバーのみなさんが
「やりたくない時もあるよね。やりたくなったらできるよね。」
と、そのままの姿を受け入れてくれて、きっちりやる事よりも、そのままの
姿を受け入れる大切さに気づかせていただきました。

活動を始めて1年もたたないうちに、親子で韓国のホームステイに
行きました。

ホストのお父さんは韓国語しか話せないし、息子たちは日本語しか話して
いないのですが、とってもかわいがってもらい、帰国したら
「僕はアッパ(韓国語でお父さん)といっぱい韓国語で話した!」と言って、
言葉がわからないなんて、みじんも思っていなかったんだと驚きました。

そして毎週のピアザやホームステイ、報告会等の活動をしていく中で、

次男も気づいた時にはみんなの前で、それも多言語で自己紹介や自分の体験を話せるようになっていて、中学受験での親子面接の際には、面接官方の前で堂々と話しをしていました。

その姿を目にした時は『いつのまに…』とちょっと感動しました。

入会してから今まで、正直我が子にはなかなか広い心で接することが難しい時もありました。けれども、受け入れてもらえるセルラスの環境の中で親子共に育てていただきました。

きっと親子だけの狭い世界だと行き詰まっていたでしょう。

小学校高学年の時、学校の先生が次男のことを

「大人としゃべれる小学生はすごいですよ」と褒めてくださいました。

セルラスの環境の中では、当たり前のことでしたが、実はそれが当たり前ではなかったんだと、改めて思いました。

自分よりずっと年下の子から上の子、大人まで異世代の中で、今も確実に成長させてもらっています。

一緒に活動してきた長男は今、高2になりましたが、今もピアザのシャドウイングタイムのお当番をやったりしています。

親子でこんなに長く一緒にできることに出会えてよかったと、しみじみ思っています。